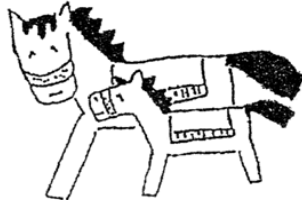


♪  
お馬のかあさん  
やさしいかあさん  
子馬をみながら  
ぽっくりぽっくり  
あるく

# おうまのおやこ

子育ても  
あせらず待ちましょ  
ポックリ、ポックリと

25年 3月 NO. 220



(厚生労働省・高松市委託事業)

〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2  
高松保育園内地域子育て支援センター  
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857  
<http://www4.ocn.ne.jp/~kouma/>

～どなたでも～		<b>3月の主な活動</b>		～お気軽にどうぞ～
3月 8日	金	おはなしの会 10:00～11:30	「進級だ。心も体も大きくなあれ」を テーマにうたや大型絵本で楽しく。	
3月 9日	土	体験保育 10:00～12:00	同じ年齢のクラスに入って みんなであそびましょう。	
3月 16日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方も子育て体験に おいで下さい。	
3月 16日	土	スピーチ講座 14:00～16:00	色々な会の司会や敬語の使い方 について。ことし最後の講座となります。	
3月 26日	火	健康・育児相談 11:00～12:00	園医師（小児科）にゆつくり 相談できます。（予約要）	
3月 26日	火	香川みずゞさんの会 14:00～16:00	今から100年位前の香川県出身童話作家 村山篝子さんのお話をたのしみます。	

<p>・火～金の13時～16時までは、園内開放していますので、親子でご来園下さい。 (但し、月・日曜・祭日は休み)</p>	<p><b>育児相談（月～土）9:00～18:00</b> しつけや子育てについての悩み、保育園生活、 入園・見学についての相談もどうぞ。</p>
---	---

香川県高松市御坊町2-2  
高松保育園 地域子育て支援センター



金子みずゞ童話全集④  
「空のかあさま・下」より

そんな笑いがこぼれるように、  
おきな花がひらくのよ。  
おぼれ土に落ちたとき、  
芥子はきれいな薔薇いろで、  
それよりかちさいさくて、  
わらい



# 保護者の本音を聴いてくださ〜い！

〜保育園に入園してよかったこと（これから入園する皆様へ）〜

## \*Nさんから

★★

私が個人的にとっても感動したのは、娘が1歳になったばかりのある朝のこと。登園すると、部屋の中の柵に並んだ友だち6、7人が「〇〇(娘の名) ちゃあーん！おーはーよー！！おはよー！」と一斉に手を振って迎えてくれました。なぜそんなことをしたのか、よくわかりませんが、子どもって一人の子がすると皆、真似をしたがるから一斉にしたのかも。じつは、娘は驚いて半泣きでしたが、私は「娘はまだ1年ちょっとしか生きていないのに、すでにこうしてあたたかい人間関係を得て、毎日すごしているんだなあ…」とジーンとしてしまいました。細かいエピソードですが…。

他にも、1、2歳で、すでに手を洗う順番を待つことを知っているし、おもちゃの取り合いもするけど、子どもなりに話し合っ「じゃあ、先に使うから、すぐ貸してあげるね…、はい、どうぞ」なんて解決したりします。これは、母子だけで毎日家において、1時間公園に行くだけでは身につかない社会性だと思います。

また連絡帳に、毎日の子どもの変化や親が知らない面などが手にとるように書かれています。保護者からも、体調面での心配、こんなことでこう叱ったが、もっとうすればよかったのか、とか具体的に相談することができます。そして一般論ではなく、「うちの子」の性格や成長段階を把握してのアドバイスをいただけるのですから、専属の子育てアドバイザーを持っているようで、私は恵まれている…と感じたことが度々ありました。

## \*Mさんから



保育園児のポジティブな面、あげ出したらキリなし！うちも0歳児から預けましたが、友だち、お兄ちゃん・お姉ちゃんをつくって、楽しくすごしていました。でも、社会的になるかどうかはその子のキャラクター。園には大人しめな子もいることを知って付き合い中で育っていきます。年上の仲間に入れてもらうことで、自分もいつか年下の子を仲間に入れることや友だちをつくるきっかけを学びます。遊び方も、いろんな子のまねをしながら自分なりの遊びを見つけていきます。保育園にはそれができる時間と場所と人があるのです。

子どもと向き合うのに、時間の長さには関係ないという人がいます。ある面あたっているし、ある面違うと思っています。子どもがそばにいてほしい、遊んでほしいと思っている時はとことん子どもと向き合えねばなりません。子どもが自分の世界にいる時は、思い切って自由にさせることも大事だと思います。子どもの様子がわかるようになるまで時間がかかるし大変だけど、それができるようになれば、保育園ほど楽しいところはありません。

ん。わが子も毎日、「お迎えが早い！（怒）」といっちは保育士に甘えています。保育士からいわれたのは、「子どもがかいわいいのはどちらも一緒だが、親と保育士は違う。いろんな角度から子どものいいところを見てもらっていると思って」。保育士の目から見たよさを知れば親は嬉しいし、親の目から見たかわいいところを聞くと、保育士はもっとその子がかわいくなるのだそうです。



#### \*Tさんから

1人目は過保護に育ててしまったので、1、2歳の頃は砂とか泥が手につくの嫌がっていました。2歳時の時、担任が迎えの時に嬉しそうな顔で、「お母さん、今日、〇〇ちゃん、すべり台すべれたんだよ！公園に散歩に行った時、みんながすべり台をすべるのを〇〇ちゃんがじーっと見ている、なかなかすべれなかったの。でも今日ね、すべり台の階段のところまで迷ったけど、階段に手をかけて、1回、手に着いた砂を払ったんだけど、そのあとはいいやって感じで階段を上って、すべれたんだよ～」と話してくれました。

先生が、背後から見守っている目線が感じられて、嬉しくなりました。この先生には、つごう4年間担任してもらいましたが、子どもに何か指示したり、代わりにやってしまうのではなく、待つ・見守ることの大切さを教えてもらいました。



#### \*Fさんから

娘が1歳児クラスのある日、連絡帳に担任のこんなメッセージがありました。

「お手伝いごっこが気に入っていて、給食やおやつを配ってもらったりしているのですが、今日は午睡前、裸で飛び回っているTちゃんやMちゃんに「おしっこしよー」と声をかけ、連れてこようとしていました。でも2人には通じず、手をかまれそうになったり、ドンと押されたりしていました。その都度、ようすを見ながら促していたので、Rちゃん（娘）もイヤな気持ちにならずにすんだようでした。『ありがとう。お手伝いしてくれて嬉しいよ』という、とてもいい笑顔で得意気でした。いつでもどこでも、こんないきいきとした顔でいてほしいと、心から思ったことでした」

娘は4月生まれで身体も大きく、さらに産休明け入園だったので、“0歳児クラス2回”（事情を知らない方にはなかなか理解できない）体験者。1歳児クラスに進級した時はすでに3年目。園で“お姉ちゃん”していることなど家では見せず、自分を“あかちゃん”と主張し、お兄ちゃんにご飯を食べさせてもらうような甘えん坊でした。そんな娘の成長を、見守るだけでなく伝えてくださる保育士さんがいることは、とても幸せでした。

娘が1歳児の時、持ち上がりの、大好きなY先生がぎっくり腰で暫くお休みされていました。ある朝、他に泣いている子もいて、兄がいるので娘はあまり泣かないし、親も園を信頼していて、Y先生はすでに1人抱っこしていらしたので、「いいですよ」と娘を床に下ろし

て行こうとしたら、「初めだけでも」と、片腕に1人を抱いたまま、もう一方の腕で重い娘を抱いて受けてくださったことを思い出しました。早番遅番もあり、誰かしら1日中抱っこしていなければならないのでしょうかから、肉体的にも大変な重労働だと思いました。

もちろん、この「受ける」は身体だけでなく精神的な意味でもあります。こうして子どもと保護者を受け入れるには、十分な人手が欠かせません。間もなく具体化されていく保育制度改革が、利便性だけでなく、このような保育士さんたちの思いもいかす制度になることを望みます。

「保育園を考える親の会」

## 親がホッとした保育者からの ことば

### その1

息子が1歳児クラス（満2歳）の頃、お迎えに行ってもなかなか帰ろうとせず、手を焼いた時期があります。担任の先生との個人面談では、

「お迎えに来たら、早く保育室を出て帰るようにしてください。〇〇ちゃんが玄関でグズグズしていると帰りにくい、とほかの保護者からクレームも出ています」と注意され、すみません、と頭を下げるしかありませんでした。

この先生は、私たちが退室するまでずっと「〇〇ちゃん、早く、早く」といい続けて急かすために、余計プレッシャーがかかり、お迎えに行くのを毎日憂鬱に感じていました。

そんなある日のこと。いつものように保育室で手こずっていると、非常勤の60代と思しき先生が、「この時期（反抗期）、お母さんは大変よね」と言葉をかけてくださいました。包み込むような、やさしい笑顔とまなざしで。

なにげない言葉ですが、「気持ちに寄り添ってもらえた」と感じた、それだけで、肩の力が抜け、子どもとゆとりを持って向き合えるようになりました。



### その2

上の子が入園して数か月後、0歳児クラスの保護者会があり、夫婦そろって出席しました。乳児が遊び、食べ、眠るスペースが別々に確保された日当たりの良い部屋は、まるで天国のように思えました。

少し緊張した面持ちで座った保護者に、担任の先生はこう切り出しました。「みなさんの、宝物のように大切なお子さんたちを、私たちに預けてくださってありがとうございます」

東京の都心部にある認可保育園は、首都圏の他の地域と比べると、やや入園しやすかったとはいえ、やはり待機児童は100名を超えていました。「入れてあげる」と思われても当然で、「ありがとうございます」といわれるなんて、思いもよりませんでした。

この先生はベテランで、口数は少ないけれど、いつもしっかりと子どもを抱いて背中をさすりながら、ゆっくり寝かしつけてくれました。文字通り、宝物のように大事に思い、毎日かわいがっているわが子を、自分たち親と同じ目線で大事にしてくれる人がいる。この事実、どれだけ励まされ、勇気づけられたかわかりません。

この先生はその後、別の園に異動されてしまったのですが、今でも思い出すと涙が出そうになるほど、ありがたい思いでいっぱいになります。

（「保育通信より」）